

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691700011		
法人名	社会福祉法人 博友会		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	徳島県吉野川市山川町祇園51番地2		
自己評価作成日	平成24年10月15日	評価結果市町村受理日	平成22年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族に安心して頂けるようにサービス提供の統一化を図り、質の高さを常に追求している。家庭の雰囲気をお家で頂けるよう食事については、3食手づくりで行っている。季節の味を楽しんで頂くため行事食等も行っている。利用者と職員が一緒につくるときもある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、日本家屋を意識した造りとなっており、木の温もりと住み慣れた暖かさを感じることができる。同一法人の運営する他サービス事業所が併設しており、医療や災害対策等に関する連携体制を構築している。避難訓練の際には、多数の地域住民の参加があり、協力体制を構築している。年1回、家族アンケートを実施し、出された意見等を運営面に反映している。事業所では、菜園に野菜や花を植えたり、軒先に干し柿を吊したりして、家庭的な環境のなか、利用者のゆったりと穏やかな生活を支援している。職員は、事業所内・外の研修会や勉強会へ積極的に参加してサービスの質の向上に努めている。管理者は、利用者の安心と安全は職員の見守りが基本と捉え、職員は明るく何事にも前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭環境を作り、共同生活を行って心身の維持と自分の持っている力を使い安心して頂けるよう援助をしている。	地域との関わりを取り入れた独自の理念を掲げている。事業所内に理念を掲示している。毎日の申し送り時や勉強会の機会等に確認するなどして、全職員で理念を共有している。理念をサービスのあり方のよりどころとして、日ごろのケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会や地域への清掃活動に参加し、地元の人々と交流を図る機会を持っている。	利用者と職員で小学校の運動会や地域の行事へ参加している。また、職員は、定期的に最寄駅の清掃活動を行うなどして地域との交流や社会活動へと繋げている。事業所は、地域に溶け込んだ関わり方が大切であるとの認識をもって、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌等で認知症の方々に対する接し方等を記載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年1回、家族に対しアンケートを行っている。集計結果は運営推進会議にて報告している。意見を頂いた事については、職員ミーティング等で、検討し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。家族アンケートの結果を報告したり、課題等について話しあったりしている。出された意見を事業所のサービスの質の向上に活かしている。参加者から防災に関する助言を得るなど、双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者より運営推進会議にて市の取り組みについて説明をして頂いている。	職員は、市担当者窓口を訪問して書類を提出している。事業所の取り組み状況を報告し、協力関係の構築に努めている。吉野川市グループホーム連絡協議会に参加しており、市との連携のもとで意見交換や事例検討等に取り組む体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回、身体拘束廃止委員会を開き廃止に向け取り組んでいる。年1回法人内で研修会を行っている。外部の研修会にも参加して、知識を向上させている。	毎月、職員間で身体拘束の内容とその弊害について話し合いを行うなどして正しい認識に繋げており、利用者一人ひとりの自由で安全な暮らしを支援している。管理者は、職員の見守りを拘束のないケアの基本と考え実践している。研修会にも参加し、人権等に関する知識の確保やサービスの質の向上に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングの際、身体拘束廃止委員会を併行して行っている。法人での全体研修会として年1回、講師に来て頂き、知識の向上を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用い、家族に対し説明をし、承認後署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご意見をお聞きしたり、年1回のアンケートを行っている。この時出た意見についてはミーティングで検討し、お答えできるように努力している。また運営推進会議に参加して頂き、ご意見を反映させる機会を設けている。	家族の来訪時に意見や要望を聞いている。年1回、アンケートを実施し、意見や要望を把握して検討し、運営面へ反映している。すべての家族へアンケート結果を報告して情報の共有化を図り、職員間でサービスの振り返りに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署別ミーティング(2か月に1回)毎日申し送り、主務者会で職員からの意見等を聞く機会が設けられている。	管理者は、職員が意見や提案を表しやすい関係の構築に努めている。代表者も定例ミーティングに参加したり、個人面談を実施したりして、職員の意見を聞く機会を多く設けており、出された意見を運営面へ反映させている。職員の自主性豊かな職場づくりへと繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己申告書を職員に提出してもらい、その意見を運営に反映している。また職員が自己の長期・短期目標を設定し達成度を確認しながら働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練の年間スケジュールを作成し職員を段階的に育成している。また法人全体で行う研修会には、参加を促している。資格取得に向け有資格者がアドバイスを行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、利用者及び家族と面会を行い家庭環境や生活状況を聞きホームでの暮らし方について話し合いの中で合意している。その記録については、様式があり保管している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、一緒に過ごす時間を作っている。また利用者並びに家族と面接を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接にお伺いし担当介護支援専門員とも相談する。時により主治医にも相談し、グループホームの利用が可能か否かを判断してもらう時もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のリズムで生活が送れるようにしている。調理・清掃・家事については、職員と共に行うようにしている。また、対話の中より昔のことを教えて頂くこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族に話をし、常に家族のご希望を聞きながら一緒に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の要望等にもよるが、外出時に立ち寄り家や近くの通ったりとできる限りのことを行っている。	利用者一人ひとりが馴染みの人や場所との関係を継続できることが本人の喜びに繋がると職員は捉えている。利用者一人ひとりの要望に応じた支援に努めている。知人の来訪を歓迎したり、外出時には馴染みの場所を通るなどの配慮を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係に気を配り職員が中に入ったりと一緒にいられるよう声かけを行い、参加して頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了者に対しては、介護支援専門員に情報提供し、必要なサービスや情報を得られるようにしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画書を作成するにあたり検討し、利用者並びに家族のご意見を反映できるようにしている。	日ごろから職員は、利用者との関わりの中で意向の把握に努めている。利用者の担当職員を定めているが、ミーティングや介護記録等を活用し、全職員で情報を共有している。意思疎通が困難な方も工夫して本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に行き、入居状況調査票にて情報を記載する。その情報を職員に回覧し周知徹底をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護サービス計画書を作成する際にケース記録及び生活記録表・介護記録を参考にしたり、家族からも現状に対するご意見を頂き総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決めている。介護サービス計画書の作成時、家族に要望等を聞いてカンファレンスを実施している。会議には、計画作成担当者や担当介護職員、介護支援専門員が参加している。必要に応じて、主治医に相談することもある。	アセスメントシートを活用し、利用者の暮らしのなかの課題を把握している。毎月のモニタリングと3か月ごとのカンファレンスを実施している。本人や家族、関係者間で介護計画について話し合い、利用者のより良い暮らしの実現のための介護計画を作成している。心身状況の変化に応じて、随時、計画書を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄等の記録は、生活記録表に記載している。記録内容は、サービス計画書に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	徘徊時などは、なるべく本人に付き添って散歩している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設事業所と合同で防災訓練等を実施している。また、近隣の小学校の運動会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関で定期的な訪問診療を行っている。受診結果を連絡帳に記載し、家族の情報共有を図っている。家族の希望により、他の医療機関の受診も支援している。	サービス利用前の段階で、医療機関の受診等について説明し、納得と同意を得ている。定期的に訪問診療を受けることのできる体制を構築している。家族と事業所間で受診結果を共有している。また、他課の専門医や他医療機関の受診も支援している。夜間の緊急体制も整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に主治医に同行した看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関へ事業所での生活などの情報提供を行っている。定期的の様子をお聞きし、主治医・看護師・MSWIに経過を聞きながら、退院が近づけば受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の心身状態に変化が見受けられた際の対応方針を、契約時等に家族に説明し、同意を得ている。	契約時の段階で、やむを得ず重度化に至った場合の事業所の方針を説明し、同意を得ている。心身状況の変化に応じて、家族や医師と相談し、方針を共有している。また、事業所で終末期を支援することができるよう、職員研修や話し合いの機会を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設事業所の看護職員に依頼し、緊急時の対応方法に関する研修会を開催している。必要に応じてミーティング等を開き、職員に周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として防災に関する諸規定を設けている。年2回、併設事業所と合同で防災訓練を実施しており、近隣の協力体制も築いている。	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。夜間の訓練時には、大勢の近隣住民の参加を得ており、積極的に地域との協力体制の構築に取り組んでいる。法人として防災対策委員会を設置し、地震等の対応について検討している。非常時の食料等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護を徹底している。年1回に外部講師に依頼して研修会を行っている。また、日頃からプライバシーの保護に努めている。	職員は利用者一人ひとりに敬意をもって接している。言葉づかいや呼びかけ方などに留意してゆっくりと向きあい、親しい仲にも礼節をもって対応している。着替えなどの場面では、プライバシーに配慮し、さりげない支援や声かけに努め、職員間でつねに確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に希望等をお聞きしながら対応している。理解が困難な方には、家族とコミュニケーションを図りながら対応方法を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を第一に考えて対応しているが、不十分なこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力を依頼し、理・美容院へ出かける支援を行っている。家族のご要望で、定期的に来られる理髪店の方に施設で散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の精神状態や身体状況に応じた声かけをしている。利用者の好き嫌いを把握した上で楽しく調理しているが、食事作りを好まれない方もいる。	利用者の好みを取り入れた献立を作成している。買い物や下準備、下膳等、利用者一人ひとりに応じた役割を担ってもらい、互いに協力しあっている。利用者と職員は、ともにテーブルを囲んでいる。職員は、さりげなく声かけや介助をしつつ、利用者一人ひとりにとって食事が楽しいものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量の記録は確実にしている。食事摂取量に制限がある方には、盛り付けに工夫するなど全職員で配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、記録している。週2回義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望や状態に応じて、布パンツを使用している。各利用者の排泄間隔を把握し、各自にあった排泄サービス(トイレ誘導・声かけ)を行っている。おむつ外しに取り組んでいる。排泄方法についてのマニュアルを作成し実施している。	職員は、トイレでの排泄を大切に考えて支援に取り組んでいる。排泄チェック表を活用して一人ひとりのパターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む野菜を献立に取り入れている。また、朝食時には、ヨーグルト等の便意を促すような食材を提供している。排泄チェックシートにより排便の間隔を把握して主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴は、利用者の希望に添って実施しており、基本的に曜日及び時間の制限は設けていない。概ねではあるが、実施時間については、決めている。	利用者の希望にそって入浴してもらうことができるよう支援している。入浴を拒む利用者には、十分にコミュニケーションをとったうえで、タイミングを変えるなどして一人ひとりの気持ちを大切に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠の妨げにならないように吸収力の高いパットを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者独り言の服薬の目的や副作用、用法の理解に努め、個別に管理している。服薬の支援時には、必ず服薬時に薬袋と利用者の顔を確認している。他の職員に聞こえる声で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の精神状態や身体状況により、日記等をつけてもらったり、趣味活動や運動等を支援している。また、本人の能力に応じて清掃や調理、ゴミ捨てなどの役割を担っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のもと、外出を行っている。また天候により、近隣の公園まで出かけることはある。	買い物や地域の行事に出かけるなどして、外出の機会を積極的につくっている。天気の良い日には、敷地内の神社や菜園に出かけ、戸外で気持ちよく過ごすことができるよう支援している。利用者一人ひとりが無理なく外出を楽しむことができるよう配慮している。家族との外出も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方々に対し使用する機会を設けていない。また、入居時は、お金の管理について、自分で管理できる範囲内をお願いしている。本人状況によっては、家族の方に管理して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望により、電話をかける支援を行っている。また、毎月担当職員から家族への状況報告の手紙を送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や机、配膳台等ははてづくりの物を使用している。ホール内には、日めくりカレンダーを設置しており、利用者にくめてもらっている。	事業所は、日本家屋を意識した造りで住み慣れた雰囲気がある。窓の外には、切干し大根や唐辛子を干してあり、生活感や季節感を味わうことができる。室内には手すりが少なく、あえて段差をつくることで、日常生活のなかでもリハビリができるよう配慮しており、職員は見守りを中心とした支援に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、約四畳半の畳スペースを確保している。思い思いに過ごしてもらっている。冬場には、こたつを設置し気軽に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家電製品等を自由に持ち込んでもらっている。自宅で使用していたものを気軽に、持ち込めるようにしている。	利用者は、居室に使い慣れた筆筒や家電、写真等を持ち込んでいる。本人や家族と相談し、居心地良く暮らすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が残存能力をいかせるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭環境を作り、共同生活を行って心身の維持と自分の持っている力を使い安心して頂けるよう援助をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学校の運動会や地域への清掃活動に参加し、地元の人々と交流を図る機会を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌等で認知症の方々に対する接し方等を記載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年1回、家族に対しアンケートを行っている。集計結果は運営推進会議にて報告を行う。ご意見を頂いた事については、職員ミーティング等で、検討し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者より運営推進会議にて市の取り組みについて説明をして頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回、身体拘束廃止委員会を開き廃止に向け取り組んでいる。年1回法人内で研修会を行っている。外部の研修会にも参加をして、知識を向上させている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングの際、身体拘束廃止委員会を併行して行っている。法人での全体研修として年1回、講師に来て頂き、知識の向上を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用い、家族に対し説明をし、承認後署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご意見をお聞きしたり、年1回のアンケートを行っている。この時出た意見についてはミーティングで検討し、お答えできるように努力している。また運営推進会議に参加して頂き、ご意見等を反映させる機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署別ミーティング(2か月に1回)毎日も申し送り、主務者会で職員からの意見等を聞く機会が設けられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己申告書を職員に提出してもらい、その意見を運営に反映している。また職員が自己の長期・短期目標を設定し達成度を確認しながら働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練の年間スケジュールを作成し職員を段階的に育成している。また法人全体で行う研修会には、参加を促している。資格取得に向け有資格者がアドバイスを行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、利用者及び家族と面会を行い家庭環境や生活状況を聞きホームでの暮らし方について話し合いの中で合意している。その記録については、様式があり保管している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、一緒に過ごす時間を作っている。また利用者並びに家族と面接を行うようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接にお伺いし担当介護支援専門員とも相談する。時により主治医にも相談し、グループホームの利用が可能か否かを判断してもらう時もある。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のリズムで生活が送れるようにしている。調理・清掃・家事については、職員と共に行うようにしている。また、対話の中より昔のことを教えて頂くこともある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族に話をし、常に家族のご希望を聞きながら一緒に支えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の要望等にもよるが、外出時に立ち寄り家や施設の近くを通ったりとできる限りのことを行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係に気を配り職員が中に入ったりと一緒にいられるよう声かけを行い、参加して頂くようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了者に対しては、介護支援専門員に情報提供し、必要なサービスや情報を得られるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画書を作成するにあたり検討し、利用者並びに家族のご意見を反映できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に行き、入居状況調査票にて情報を記載する。その情報を職員に回覧し周知徹底をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護サービス計画書を作成する際にケース記録及び生活記録表・介護記録を参考にしたり、家族からも現状に対するご意見を頂き総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決めている。介護サービス計画書の作成時、家族に要望等を聞いてカンファレンスを実施している。会議には、計画作成担当者や担当介護職員、介護支援専門員が参加している。必要に応じて、主治医に相談することもある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄等の記録は、生活記録表に記載している。記録内容は、サービス計画書に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	徘徊時などは、なるべく本人に付き添って散歩している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設事業所と合同で防災訓練等を実施している。また、近隣の小学校の運動会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関で定期的な訪問診療を行っている。受診結果を連絡帳に記載し、家族の情報共有を図っている。家族の希望により、他の医療機関の受診も支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に主治医に同行した看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関へ事業所での生活などの情報提供を行っている。定期的に様子をお聞きし、主治医・看護師・MSWに経過を聞きながら、退院が近づけば受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の心身状態に変化が見受けられた際の対応方針を、契約時等に家族に説明し、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設事業所の看護職員に依頼し、緊急時の対応方法に関する研修会を開催している。必要に応じてミーティング等を開き、職員に周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として防災に関する諸規定を設けている。年2回、併設事業所と合同で防災訓練を実施しており、近隣の協力体制も築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護を徹底している。年1回に外部講師に依頼して研修会を行っている。また、日頃からプライバシーの保護に努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に希望等をお聞きしながら対応している。理解が困難な方には、家族とコミュニケーションを図りながら対応方法を決めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を第一に考えて対応しているが、不十分なこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力を依頼し、理・美容院へ出かける支援を行っている。家族のご要望で、定期的に来られる理髪店の方に施設で散髪を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の精神状態や身体状況に応じた声かけをしている。利用者の好き嫌いを把握した上で楽しく調理しているが、食事作りを好まれない方もいる。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量の記録は確実にしている。食事摂取量に制限がある方には、盛り付けに工夫するなど全職員で配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、記録している。週2回義歯の消毒を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望や状態に応じて、布パンツを使用している。各利用者の排泄間隔を把握し、各自にあった排泄サービス(トイレ誘導・声かけ)を行っている。、おむつ外しに取り組んでいる。排泄方法についてのマニュアルを作成し実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む野菜を献立に取り入れている。また、朝食時には、ヨーグルト等の便意を促すような食材を提供している。排泄チェックシートにより排便の間隔を把握して主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、利用者の希望に添って実施しており、基本的に曜日及び時間の制限は設けていない。概ねではあるが、実施時間については、決めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠の妨げにならないように吸収力の高いパットを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者独り言の服薬の目的や副作用、用法の理解に努め、個別に管理している。服薬の支援時には、必ず服薬時に薬袋と利用者の顔を確認している。他の職員に聞こえる声で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の精神状態や身体状況により、日記等をつけてもらったり、趣味活動や運動等を支援している。また、本人の能力に応じて清掃や調理、ゴミ捨てなどの役割を担っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のもと、外出を行っている。また天候により、近隣の公園まで出かけることはある。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方々に対し使用する機会を設けていない。また、入居時は、お金の管理について、ご自身が管理できる範囲内でお願いしている。本人状況によっては、家族の方に管理して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者のご要望により、電話をかける支援を行っている。また、毎月担当職員から家族への状況報告の手紙を送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や机、配膳台等ははてづくりの物を使用している。ホール内には、日めくりカレンダーを設置しており、利用者にめくってもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、約四畳半の畳スペースを確保している。思い思いに過ごしてもらっている。冬場には、こたつを設置し気軽に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家電製品等を自由に持ち込んでもらっている。自宅で使用していたものを気軽に、持ち込めるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が残存能力をいかせるように支援している。		